

前回の掲載に対して「あれが伝説?片腹痛いわ!俺はもっとすごいを知っている」という投書があった。早速取材班は投書の主とのコンタクトを試みた。

第貳話「THIS IS MY CAR!」

「あれは中央会がある競技会に対して今のように積極的に参加してはなかった頃だから、今から13、4年ぐらい前だったと思うが、当時は競技会への姿勢も言ってみればまだまだ原始的な取り組み方と言うか、半ば野次馬と言うか、やたらと飲み会が多かった。前夜祭と称してその日も…」

「こりゃ!Kはや飲まんか」「N先輩ちょっと待って下さいよ」最年少の私はいつも飲まされていた。「M先輩助けて下さい、お願いします」乞うような視線の先でMさんはスイカを真っ二つに切って中身をほじくっていると。Mさんはやさしいな、飲まされている僕のためにスイカを取ってくれているんだ、と思った矢先。自分の考えの甘さを悔やみ、呪った。悪魔の笑みをこちらに向けたM先輩のさしたトロピカルドリンク、自称“忘れかけていた青春”は日本酒ベースに焼酎・ビールをブレンド、アクセントに一味唐辛子、存在感をアピールするかのよう浮いているスイカのかす、スイカの器は後味に青臭さを。最悪の飲み物を無理やり胃の中に流し込まれ、後は嵐の過ぎ去るのをひたすら耐える。終宴を迎える頃にはすっかりボロ雑巾。

そんな私に悪魔はまやかしの優しさでこう言った。「K君、わしが送った一がな」「M先輩今日は歩きじゃなかったんですか」「大丈夫素晴らしい乗り物を用意してあるのだ」既に意識がもうろうとしている私が見たものは大会本部が借用している緊急車両。「THIS IS MY CAR!」気がついた時には闇夜を切りさく音を発し、センターラインを時折またぎながら暴走する車中であつた。恐怖と恥ずかしさの狭間の中で我を忘れていて、「K君無事到着だ」したり顔の悪魔が私を覗き込む。魂を売ったかのように呆然と立ちすくむ私に一言「さらばだ!」悪魔は誇らしげに来た道を帰っていった。

取材班に熱く語るK氏。しかし当時泥酔状態にあつたK氏は現実と虚像の判断があつたであろうか。謎は深まるばかりである。

※第2弾のまたまた酒がらみの逸話。大会成功の準備に一生懸命。たまつたストレスをとる為の気分転換はやはり若い時はアルコールが手取り取り早いんですね。理性を越えてしまう青春時代の飲み会の1ページを見ている様で郷愁さを感じますが……反省。

追伸 このM氏は現在天罰が下つたかどうか、定かではないが、その後“痛風”とお付き合いがあるとのこと。今回の「聞いてごしない」の筆者ではありませんので、誤解なき様。

聞いてごしない Part 13

皆さん痛風って知ってますか?私は5年前までは、全くと言っていい程知りませんでした。あれは、5年前の5月の連休でした。5月3日に友達とゴルフに行き、あくる日5月4日に家族で鳥取砂丘に行った所、どうも朝から足の親指のつけ根が痛み、最初はまだ我慢が出来ていたが時間が経つにつれて痛みが強くなってきて昼ごろには、もう靴を履いていられない程になり、たまたま靴を脱ぐとなんと足の親指のつけ根が赤くはれあがっているではないか!「これは骨折にまちがいない」と思ったが、まてよ…骨折の原因が思い当たらない。もしかして私の寝てる時に家内か子供が足を踏んだのかな?いやそれとも昨日のゴルフで歩きすぎて疲労骨折でもしたのかな?などと色々勝手な想像をしていたが、だんだん痛みが増してとても我慢出来ない程になり、家内と子供に「もう帰ろうよ～」と言うと、「なんで～まだ帰りたくない～ヤダワ～」と返事が戻って来た。たまたま「お父さんは足の骨が折れちゃうけん帰って病院に行かへいけんだけん」と言う子供達もビックリしてそれじゃあと言う事で帰る事になって、病院の緊急外来に直行、診察室に入ると女医さんが居て痛い親指をギョッとつかみ「血液の検査をしないとほっきり言えないが十中八九痛風でしょう」とはっきり言われた。それから私と痛風の付き合いが始まりました。

医者いわく痛風は一生治りませんので、食事療法、薬などで一生付き合ってくださいとの事。

痛風とは、血液中の尿酸の結晶が針状になり、その針状の結晶が末端の関節の神経に突き刺さり、それがとても痛いのです。俗に風が当たっても痛いですので痛風と言うそうです。

追伸 痛風には、焼肉、ホルモン、ビールなどがとても悪いそうです。皆さん健康の注意はもちろん食生活にも十分注意しましょう。(人生最大の痛みを経験した男)

コピーをして名簿にお貼り下さい

プロフィール: 松浦光善 (総務) 代表取締役社長 山陰建設(株) 建材販売・板金工事・配送業

【コメント】 青年中央会の皆様、初めまして。3月より入会させて頂く事になりました、松浦光善でございます。

4月レクリエーション例会案内 とき 平成12年4月16日(日) AM9:30集合

4月役員会報告 4月定例役員会が平成12年4月3日(月)、米子食品会館に於て開催された。

編集後記 ある日、ごろ寝としゃれこみ名古屋国際マラソンを観ていた。実力世界一と噂の高橋尚子選手に注目していたが、中盤まで集団に飲み込まれていたためで興味を失せ、夢の世界へ行ってしまった。

Handsome

発行人:鳥取県西部中小企業青年中央会 会長 堀田収 編集責任者 小林慎一 印刷所 東京印刷所

次年度土井丸サポート役決定

次年度副会長 景 幹雄 門脇 浩二 北野 実 浜 義徳

平成12年3月15日(水) ホテルサンルート米子に於いて臨時総会が開催され、次年度副会長に景幹雄会員・門脇浩二会員・北野実会員・浜義徳会員が満場一致で承認された。

次年度副会長指名にあたり「積極的な中央会活動、情熱、人徳とも申し分なく、又企業人としても素晴らしい」と土井次年度会長の推薦があり、承認の後それぞれに次年度活動の抱負と決意表明があつた。「英知」「友愛」「団結」のうち特に「英知」を養うことを重点項目に掲げる土井次年度会長の舵取りを強力にサポートするに相応しい人選となつた。

次年度県会長推薦に決まった奥森隆夫氏に聞く



このほど、平成12年度の青年中央会県会長推薦に決まった奥森隆夫氏にお話を伺った。

奥森氏は昭和52年大阪商科大学経済学部卒、現在は新和産業(株)専務取締役として、境港を中心にその活動は幅広く、人脈もまた多方面にわたる。日頃は中央会の中で頼りになる兄貴的存在。

これまでの中央会活動を振り返り次のように語る。「いまから10年くらい前、先代社長の父が他界し、会社の経営が行き詰まった時期があつた。残された兄弟二人でなんとかしのいで切り抜けてきた。

立ち直るのに約8年。厳しい中での中央会入会だった。入会当初はナマイキな会員だったと思うよ。先輩にも臆面もなくバンバン言うしね(笑)でも、年を経るごとに気づいたのが、中央会に入っている人々と知り合えたこと。知り合えたから人との和の大切さが身に染みてわかるようになってきたこと。和というのはこれからも大事にしたいね。」

県会長に推薦された心境は? 「大変な重責で、皆さんの期待に応えられるかどうか分かりませんが、みんなのためにまた、県中央会発展のために、全力を尽くしたい。みなさん、ご協力のほどよろしくお祈りします。」

妻と二人の年頃の娘さん、高級(!)柴犬2匹に囲まれ、何もしない父親だと照れながらも、「仕事・家庭」があつての中央会。妻子を大事にしてガンバレヨ、と逆に強く肩を叩かれて事務所を後にした。奥森次年度県会長、ガンバレ!



# 3月例会報告

平成12年3月15日(水) ホテルサンルート米子に於いて3月例会(マネージメント委員会担当)が行われた。



堀田会長の「次々と来年度の器が出来つつある中、本年度も残すところあと4ヶ月になり、きちんと事業をまとめあげ、次年度にバトンタッチしていきたい。」と挨拶の後、新入会員(1名)のバッジ授与式、臨時総会(次年度副会長指名承認の件)、トライアスロン大会出向部員及び委嘱状の授与と進み、委員会タイムでは、河端明彦会員(畷河端水産)が、「景気低迷のおり、自社PR及び販売網の拡大を計る為、4月1日を目標にホームページ立ち上げに奮闘中」である事を報告。そして、講演会に移った。

今回は、講師先生に、鳥取銀行くらしと経営相談所・所長上原信一氏をお招きし、「低迷する県内の個人消費」～消費者はなぜ? どう変わったのか～の演題で、ご講演して頂いた。

昨年12月に個人消費の動向について調査された事を踏まえ、自分自身の個人的解釈と前置きされ、以下の項目及び全国と鳥取県とを数字で比較した経済指標(統計)のレジメを基に、補足説明を加えられながら講演を進められた。



1. 個人消費の現状  
(1) 大型小売店売上 (2) 自動車販売台数 (3) 家計調査から見た個人消費
2. 個人消費低迷の背景  
(1) 収入の減少 (2) 消費者心理の悪化 (3) 消費行動の状況
3. 県内の個人消費関連企業からみた消費者の変化

統括として、家計は収入の減少に合わせて、如何に調整するか。しかし、生活を楽しむ部分も無いと駄目で、その為、一生懸命考え自分自身が納得出来る、合理的消費生活を考えていこうとしているのではないかと。又、企業は不況の中での消費者の指向の変化を、如何にとらえていくかという点が、重要であろうと述べられた。

片山知事の「その土地で生産されたものを、その土地で消費する」(地産地消運動)の取り組みを我々もよく理解し実行できれば、低迷する個人消費の歯止めの一つになるかもしれない。

最後に奥森隆夫担当副会長の「各企業、暗中模索の中で、この講演をヒントにして努力していきたい。」との決意を込めた謝辞で締めくくられ、3月例会が無事閉会となった。

## 政治行政委員会 東京研修報告

### 自治省行政局行政体制整備室を訪ねて

平成12年3月9日(木)、虎ノ門JTBビル内の自治省へ合併問題について研修の為、訪問し自治省行政局行政体制整備室課長補佐溝畑氏の話をうかがった。

溝畑氏は「何にしてもリーダーシップの取れる人が必要。いざとなると皆、責任を取りたがらない、合併問題にしても誰か、1人でも2人でもやってくれるという人が出てくれば出来る。世論とか組長の判断とかで逃げているから進まない。俺がやるからついてきてくれと言う1歩手前で疲れてる。失敗したら血まみれになるし県庁内でも叩かれる。しかし有言実行でないと駄目だ。市町村合併にしてもやらなくてはならぬのは皆わかっている。介護、ゴミ問題然り、民間社会はどんどんリストラしているのに役所は何もしないというのは限界に来ている。逆風が吹くのは最初から解っているが、それを責任を持って乗越えられる人が必要だ。見ていると結局は無理だとか評論家になってしまう場合が多すぎる。合併とはそれまでの地域社会のカルチャーを壊すということ。中途半端な気持ちでは出来ない。手段として署名活動とかでがんばっているけど、究極の所、腹が決まっていない。求心力を持って行政や世論を巻き込んで自分たちが責任を持つと宣言する、すると最初は皆冷ややかな目で見ると、結果が出てくると皆の目がこちらへと向いてくる。20~30年後を展望したとき、鳥取県はどの様になるかということを考えることが大切。元気の無い町に若者は残らない、夢が必要だ。小さい郷土ではなく、マクロで見た鳥取県として考えるべき。平成17年3月までに合併したら「特例」が使える。合併のメリットとしては職員、議員が減り、生きたサービスに税金が使える。人口20万人位の市町村合併で約180億円の節約ができる。今年位から国も県も動きが出てくるはず。とにかく17年の3月までにやらないといけなからあまり時間がない。合併してどのような町にするかを住民に解る様にする。合併しても地名、町内会、祭り、行事など、大体残しているようである。そういう郷土愛も上手に残した合併も出来るのである。時代は今、組織から個人へと移ってきている。高い夢を設定し、有言実行、義理人情を大切に1日1日地に足を付けて進めることが大切だ。」

鼻息荒く乗り込んだ我々だったが、とにかく溝畑氏の熱い話に圧倒されればなしの2時間であった。

(野川 誠司)



## 3月度委員会報告

**マネージメント委員会**  
平成12年3月7日(火) 於:米子食品会館 出席者/11名  
内容/・3月担当例会最終打合せ  
人員配置とタイムスケジュール 若干変更  
担当例会の成功と出席率100%を誓い合った。

**ビジネス委員会**  
平成12年3月7日(火) 於:米子食品会館 出席者/8名  
内容/・5月担当例会打合せ  
講師、日時、場所及び役割分担を決定。  
次回タイムスケジュール、講演内容、委員会タイム等の詳細を話し合うことを確認した。

**政治行政委員会**  
平成12年3月7日(火) 於:ホールサムイン皆生 出席者/6名  
内容/ 総務委員会と合同で4月レクリエーション例会の打合せ。

**げんこつ委員会**  
平成12年3月6日(月) 於:米子食品会館 出席者/8名  
内容/・講師:九重体育指導研究所 九重 卓氏  
「青少年の非行と家庭教育・社会のあり方」  
現在の青少年を育成する上において、生涯教育を基本・明確化し、家庭・地域の役割を重要視するべきと講演から判断される。

**地域ビジョン委員会**  
平成12年3月8日(水) 於:ホールサムイン皆生 出席者/8名  
内容/ 会員タイムで古久雅彦会員にお勤め先のホールサムイン皆生の運営母体・形態・施設の規模など政府管掌健康保険センターとしての苦勞など貴重なお話していただいた。山本良文会員にはお勤め先の江尾砕石工業(株)の会社生い立ち・生産されている砕石の使われている場所・砕石業に必要な資格及び許認可・石の性質など砕石について再確認するような貴重なお話していただきました。

これからの委員会活動として観光についてももう少し掘り下げて勉強し、まとめて行くことを話し合い確認した。

**21 地球委員会**  
平成12年3月10日(金) 於:岩崎館 出席者/10名  
内容/ 今回の委員会は、4月下旬に配布予定のケナフの種と資料について、よりわかりやすい資料にする為の協議をした。少しでも地球環境を考えていただく為に、様々な意見が出た。又、ホームページへ掲載する為に勉強を行った。

新入会員の影山・植田両会員も協議に参加して「21地球委員会の白熱した意見交換に感銘を受けた」とのコメントをいただいた。

**2020 グランドデザイン委員会**  
平成12年3月7日(火) 於:大連 出席者/10名  
内容/・2月担当例会についての反省、感想  
残り期間の委員会活動方針について、及び本年度のまとめについて議論した。せっかくの機会だから本音の意見を出し見通しの良い中央会になる様提言していく事を確認した。

**広報委員会**  
平成12年3月6日(月) 於:やす多屋 出席者/16名  
内容/・ハンサム4月号の編集  
・25周年記念誌の打ち合わせ  
・ホームページメンテナンスの件

**総務委員会**  
平成12年3月7日(火) 於:ホールサムイン皆生 出席者/16名  
内容/・4月レクリエーション例会開催の件  
a) 参加人数  
b) プログラム内容の検討  
c) 得点 等の決定  
その後、場所を変え、松浦氏の歓迎会、加藤氏の送別会、北野氏の次期副会長指名の会を政治行政と合同で行った。

去る2月27日(日)、スキー同好会結成記念の初滑りが大山スキー場にて行われ、宮廻直前会長(同好会会長)の呼びかけのもと、中島(太)会員、野川会員、茅野会員、桑本会員、そして尼子(筆者)の5名が集まった。

前日に岡山でのコンペがあり、朝から晩まで(正確には朝から次の日の明け方まで)飲んでいたせいとか、かすかな胃部不快感を覚えつつも午後からの参加を強行、雪道に不慣れな私は桑本会員の車に同乗し、現地へと向かった。

待ち合わせ場所である上の原ヒュッテ「ヒルトップ」に到着すると、既に一滑りし終えた宮廻直前と茅野会員がおいしそうにビールを飲んでいるではないか。しかもジョッキを4杯ずつ。遅れて来た我々は当然のように「駆けつけ3杯」を強要されることになる。「たった1杯を飲み干すのがこんなに辛いものなのか」と、二日酔いで泣きそうになりながら飲んでいるところに野川会員が到着。なんとか拷問は免れてゲレンデへと出発した。

野川会員にスノーモービルで引っぱってもらい、周囲の羨望の眼差しに得意になりつつ「国際」へと向かう。リフトを乗り継ぎやって来たのは最大斜度43°のチャンピオンコース。コブ

## お知らせ 祝・スキー同好会結成



だらけである。  
華麗な滑りを披露する宮廻直前と茅野会員。それを見て悔しがれる野川会員。なんとか頑張る桑本会員。暴れるショートスキーを乗りこなせず、足腰の老化を呪う尼子。出掛けでスキーウェア装着に一苦勞、途中でペンディングが壊れて急遽スキーをレンタル、その上コースを間違えるという災難はあったものの中島会員も無事に合流し、宮廻直前の地獄のレッスンはその後延々と続いたのだった…。

ともあれ宮廻直前悲願のスキー同好会は発動した。来シーズンは会員数を増やし、是非とも遠征を実現したいものである。私は「緩斜面を優雅に滑る」班の班長になりたいと思っている。新規の参加者大募集。遠征のみのご参加、大歓迎。ビールの拷問、地獄のレッスンあり。

〈追伸〉  
畑中OB、次回は確実に日にちを連絡しますので、今回にこりず、ぜひ参加お願いします♥